



## 地域に向けた手洗い指導の拠点の構築

～公民館を拠点とした手洗い講習会～

研究代表者 山本 恭子（人間健康学部 人間看護学科 教授）

共同研究者 木村 保司（人間教育学部 児童教育学科 教授）  
田渕 正樹（人間健康学部 食物栄養学科 准教授）  
熊谷 桂子（人間健康学部 人間看護学科 講師）  
茅野 友宣（人間健康学部 人間看護学科 助教）

連携協力先 尼崎市中央公民館  
尼崎市園田公民館  
尼崎市武庫公民館  
尼崎市大庄公民館  
尼崎市立花公民館  
尼崎市小田公民館



### 【はじめに】

インフルエンザやノロウイルス感染症は毎年流行し、人々の生活に大きな影響を与えている。これらの感染症では、ほとんどの患者が家庭で療養することから、大流行を防ぐためには地域における感染対策が必要である。そこで、本研究では公民館を拠点とした手洗い講習会を開催し、地域住民の参加状況と手洗いに対する意識を調査し、より有効な感染対策の拠点について検討した。

### 【方法】

尼崎市内の全公民館（6公民館）に感染予防のための手洗い講習会の開催を依頼した。より多くの参加を促すために、健康講座と手洗い講習会を同時に開催した。

健康講座：「緑茶の健康科学」「骨粗鬆症」「コレステロール」「痛風」「認知症」の中から各公民館で1つ選んでもらった。

手洗い講習会：インフルエンザ、ノロウイルス感染症の概要と対策について説明し、感染対策に向けての手洗いの重要性を理解した上で、蛍光ローションを使用した手洗い効果の検証実験を行い、ポスターを使用して有効な手洗い方法を説明した。

手洗いに関する意識調査：講習会終了後、アンケートにより行った。

### 【結果】

参加状況：現在までに4公民館での開催を終えた。今年度、残りの2公民館での開催を予定している。チラシによる参加を募ったところ、中央公民

館 10 名、園田公民館 20 名、武庫公民館 18 名、大庄公民館 4 名、合計 52 名の参加であった。年齢は 60 才代が 44.2%、70 才代が 38.5%と多かった。

手洗い講習会の効果：手洗い講習会前、感染症を防ぐために手洗いが重要だと思っていたか、の問いに対して思っていたが 65.4%、なんとなく思っていたが 28.8%であったが、講習会受講後は思うが 98.1%となり。ほとんどの人が確実に認識するようになった。以前に感染予防のための手洗い方法を習ったことがない人が約 8 割で今回のような手洗い方法をあまり知らなかった人、知らなかった人を合わせると約 3 割であった。ポスターを使用した説明はほとんどの人がよく分かったと答えた。蛍光ローションを用いた手洗いの検証実験の感想では、自分の手洗いの不十分さに気がついたという記載が 73.1%にみられ、その他では視覚的に見ることで良かった、面白かったという記載も見られた。さらに、全ての人が講習で得られた知識を誰かに伝えたいと思っており、家族以外にもボランティア関係の仲間、友人、職場などが挙げられていた。

### 【考察】

今年度、尼崎市の全ての公民館に協力していただくことができ感謝している。手洗いは日常的に習慣化している行為であるが故に、「手洗い講習会」

というだけでは人が集まりにくい。そこで今回は健康講座と合わせて人を呼び込んだ。その結果講習会前はそれほど関心を持っていなくても、講習会を受けることで手洗いの重要性を認識することができ、手洗い技術も伝えることができた。このことから、地域ぐるみの感染対策をめざす為には、いかにして人を呼び込むかが鍵となると考える。骨密度測定を実施すると、多数の参加が見込まれることが分かっているので、今後、骨密度測定と同時に開催することも検討したい。また、我々が目的としていることは参加者に、感染予防のための手洗いを広めてもらうことであるが、ほとんどの人が誰かに伝えたいと思っていることから、ポスターを持ち帰って配ってもらうことも有効ではないかと考える。



### 効果的な手洗い方法

